

目 次

1 年次生対象授業科目

心理学概論	1
早期体験学習（多職種連携）	3
人体の構造と機能及び疾病Ⅰ（医学概論）	5

2 年次生対象授業科目

心理学統計法	7
心理学実験Ⅰ	8
心理学実験Ⅱ	10
臨床心理学概論	12
人体の構造と機能及び疾病Ⅱ（解剖学入門）	13
人体の構造と機能及び疾病Ⅲ（生理学入門）	14
人体の構造と機能及び疾病Ⅳ （生化学・分子生物学入門）	16
知覚・認知心理学	17
発達心理学	18
教育・学校心理学	20
社会・集団・家族心理学	22
心理的アセスメント	24
感情・人格心理学	26
心理学的支援法（カウンセリング概論）	27
公認心理師の職責（心理師実践職能論）	28
心理演習Ⅰ（コミュニケーション演習）	30
関係行政論（社会医学・関係行政論）	32
社会福祉論	34
生命倫理学	36
病理学・免疫学概説	37
微生物学・医動物学概説	38

ナンバリングコード B2PSY-bdcM-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 780010) 心理学概論 Outline of Psychology	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 1～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bdcM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 笥 善行, 黒滝 直弘, 横見瀬 裕保, 富山 清江, 芳地 一, 村上 弥生, 永尾 幸, 高田 純, 林 智一, 川人 潤子, 橋 本 忠行, 野口 修司, 神原 憲治, 竹森 元彦, 山田 俊介	関連授業科目	履修推奨科目	
学習時間 講義90分×15回+自学自習	履修推奨科目		
授業の概要 この授業では、心理学が成立した過程・歴史、対象とする領域、研究法について学習する。また、人の心の基本的な仕組み及び働き基礎的内容について学習する。それに加えて、医療従事者のあり方や健康に関する諸問題に触れることを通して、心理学と医療、心と身体に関連について学習する。さらに、講義全体を通して、心理援助職をを目指す者としての態度や倫理について考えを深める機会とする。			
授業の目的 1) 心理学が成立した過程・歴史、対象とする領域、研究法について理解する (DP「知識・理解」に対応)。 2) 人の心の基本的な仕組み及び働き基礎的内容について理解する (DP「知識・理解」に対応)。 3) 心理学と医療、心と身体に関連について理解する (DP「知識・理解」に対応)。 4) 心理援助職をを目指す者としての態度や倫理について認識する (DP「倫理観・社会的責任」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 心理学の成り立ちについて説明することができる。 2) 人の心の基本的な仕組み及び働きについて説明することができる。 3) 心理学と医療、心と身体に関連について説明することができる。 4) 心理援助職をを目指す者としての態度や倫理について説明することができる。			
成績評価の方法と基準 ミニレポート、学期末試験、出席・受講態度などから総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回 心理学と医療Ⅰ 笥 善行(学長) (合同授業) 第2回 心理学と医療Ⅱ 黒滝直弘 第3回 心理学と医療Ⅲ 横見瀬裕保(病院長) (合同授業) 第4回 心理学と医療Ⅳ 富山清江(看護部長) (合同授業) 第5回 心と身体健康Ⅰ 芳地 一(薬剤部長) (合同授業) 第6回 心と身体健康Ⅱ 村上弥生(男女共同参画推進室) (合同授業) 第7回 心と身体健康Ⅲ 永尾 幸・高田 純(保健管理センター) (合同授業) 第8回 心理学とは・心理学の成り立ち 野口修司 第9回 認知・学習 川人潤子 第10回 感情・人格 橋本忠行 第11回 発達 林 智一 第12回 社会・集団 野口修司 第13回 脳の働きと心の障害 神原憲治 第14回 心理臨床Ⅰ 竹森元彦 第15回 心理臨床Ⅱ 山田俊介 【授業及び学習の方法】 授業内容の理解度をみるために毎回、授業終了時にミニレポートを提出し、レポート提出をもって出席とみなす。遅刻者に対しては遅刻時間に応じた減点を科す。授業を聞きながらレポートを書くことになるため、相当の集中力を要する。遅れて提出されたレポートは採点対象外となる。 教科書は各自で読み進めておくこと。授業内容に興味をもったら、積極的に関連の本を読むことをすすめる。改めて講師に質問したい場合は、必ず事前にアポイントを取る。			
教科書・参考書等 京都大学心理学連合(編) 心理学概論 ナカニシヤ 2011 (¥3,000+税)			
オフィスアワー オムニバス方式のため、各担当教員に確認のこと。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

15回のうち6回は医学科・看護学科との合同授業であり、臨床講義棟2階講義室で実施する。離れた教室への移動となるので開始時間に遅れないように行動すること。合同授業の一部は3大学連携事業の一環として実施する。

学期末試験は、第8回～第15回の範囲で出題する。

教員の実務経験との関連

本授業では、医師、看護師、臨床心理士等それぞれの実践に携わってきた専門家が、それぞれの実務経験を踏まえてオムニバス形式で講義を行っていく。

ナンバリングコード B2MED-beaM-20-Mf2 授業科目名 (時間割コード： 780070) 早期体験学習 (多職種連携) Early Exposure to Medicine (Interprofessional Education:IPE) 早期体験学習 (多職種連携)	科目区分	時間割 後期水1～2	対象年次及び学科 1～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 beaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Mf	単位数 2	
担当教員名 神原 憲治, 黒滝 直弘, 野口 修司, 川人 潤子, 岡田 宏基, 坂東 修二	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・実習90分 × 30回 + 自学自習			
授業の概要 将来心理援助職になるに当たり、基本的な医学的知識を得ること、および、地域援助の一環として地域の医療・高齢者福祉の現場を入学後早期に体験することは非常に意義深いことである。この授業では、地域に出向く前に必要なマナーや実習目的などを医学科学生と共にグループワークを通じて検討し、高松市およびその周囲の医療機関、および介護老人保健施設での臨地実習を行うことにより心理援助職としてのあるべき姿勢を学んでいく。 <臨床心理学科単独部分>まず、実習において心理職として学んだことをシェアしディスカッションする。さらに、課題発見・解決能力を修得するために、チューターの指導の下に小グループでのPBLチュートリアルを行う。			
授業の目的 まず、以降の講義を理解しやすくするために、人体の基本的構造と機能、および日常的によく見られる疾患についての知識を習得する (DP「知識・理解」に対応)。実習では医学科学生と合同で実習に必要な項目についてのグループワークを行った後に、地域医療、介護福祉の現場に触れて、心理援助職としてのあるべき姿勢を学んでいく (DP「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」、「地域理解」に対応)。 PBLチュートリアルでは、提示された課題について、解決すべき問題点を抽出し、その解決に向けて、小グループでディスカッションを行う (DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 身体の大まかな構造と機能を説明できる。 2. 日常的によく遭遇する疾患について簡単に説明できる。 3. 地域医療の現場に接し、心理援助職となるための基本的な心構えを習得する。 4. 高齢者医療福祉の特徴を介護・福祉の現場を通じて理解する。			
成績評価の方法と基準 出席毎のミニレポート、学習態度、および実習のレポート等により総合的に評価する。 なお、グループワーク、実習、学外実習発表会準備、学外実習発表会の参加は必修である。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義は必要最小限とし、まずグループワークを通じて、学外実習の意義、医療機関や介護老人保健施設を訪問する際のマナー、礼節、および個人情報の保護などについて基本的事項を習得する。 学外実習は午前半日2週×2回行う。全体を半分に分け、前2回と後2回 (医療機関2週→介護老人保健施設2週、又は介護老人保健施設2週→医療機関2週) としていずれも体験する。 実習場所は、インターネットなど様々な情報を自分で取得し、自主的に実習先を決定する。実習後は、そこで学んだことを個々にレポートとしてまとめ、それを基にして講義の最後で全体発表会を行い、個人の経験をできる限り全体として共有する。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション／からだを知ろう 1 (医学科と合同) 第2回 からだを知ろう 2 (同上) 第3回 学外実習の説明 (同上) 第4回 高齢者の福祉施設について (同上) 第5, 6回 実習場所の選択 (同上) 第7, 8回 グループワーク (同上) 第9, 10回 学外実習 1-1 (同上) 第11, 12回 学外実習 1-2 (同上) 第13, 14回 PBLチュートリアル 1, 2 第15, 16回 学外実習 2-1 (同上) 第17, 18回 学外実習 2-2 (同上) 第19回 学外実習のまとめ (同上) 第20回 PBLチュートリアル 3 第21, 22回 PBLチュートリアル 4, 5 第23, 24回 PBLチュートリアル 6, 7 第25, 26回 PBLチュートリアル 8, 9 第27回 学外実習発表準備 (医学科と合同)			

第28回	PBLチュートリアル発表会	
第29, 30回	学外実習発表会	(医学科と合同)
教科書・参考書等 各回担当講師が必要に応じて提示する。		
オフィスアワー 基本的に水曜日午前中が望ましいが詳細は各教員に相談の事。事前にアポイントメントをとっていただくとなおありがたい。		
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 医療、介護、福祉等の現場では担当教員の指示に従い行動してください。当然ながら守秘義務も発生します。社会人として常識のある行動が求められます。皆さんとお会いできることを楽しみにしています。		
教員の実務経験との関連 心療内科医、精神科医、内科医、心理職としての各臨床経験をもとに分担して講義及び実習を行います。		

ナンバリングコード B2MED-bdxM-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 780080) 人体の構造と機能及び疾病 I (医学概論) Structure and Function of Human Body, and Diseases I (Introduction to Medicine) 人体の機能及び疾病 I (医学概論)	科目区分	時間割 後期水3	対象年次及び学科 1～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bdxM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 黒滝 直弘, 神原 憲治	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分(ディスカッションを含む)×15回 + 自学自習			
授業の概要 平成30年度から新設される公認心理師は従来の心理専門職に比べて医療(医学)との距離が近い職業です。よって特に、医療の中で行われる医療専門者との連携協働を進めるために共通言語としての医学の基本を学ぶことが求められます。医療現場の中で他のスタッフと一緒に働けることを目指すわけです。医学は2年時以降専門的にも学ぶことにはなりますが、その入門編として医学全般を俯瞰し、医学の構造を理解するとともに、共通言語としての専門用語にも触れることが本授業の概要となります。			
授業の目的 医学(医療)は一般に基礎医学、臨床医学、社会医学の3つの領域に分類されます。基礎医学は医学の歴史、生理学、解剖学、病理学等が含まれます。臨床医学では診断学の基本や、様々な病気について疾患の基礎を理解してもらいます(DP「知識・理解」に対応)。さらには病院の現場で行われている医療についての実際や、予防医学・社会学等の側面、法律を概観することで、「医学(医療)とは何か」、「医学では何か問われているか」という全容を理解していただきます(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」、「問題解決・課題探究能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 歴史を含む医学の概要を理解し、基礎医学、臨床医学、社会学についての意味を説明できる。 2. 生理系、病理系において看護師や理学・作業療法士らコメディカルスタッフとの共通の医学用語を暗記し、説明できる。 3. 病因としての環境、文化、遺伝、感染等の概念を具体的に提示し説明できる。 4. 医療現場で遭遇する代表的な疾患について、簡単に説明できる。 5. 主なコメディカルの名称、役割などの概要を説明できる。 6. 医療に関する主な法律の概要を説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験を80%、他出席点、レポートの評価を加味します。出席は3分の2未満で試験の受験資格を失うこととなるので注意してください。授業では内容を全て理解してもらい、その上で一部を暗記するという姿勢が重要です。授業内容を全てを覚えさせるものではありませんので、暗記すべき事項は毎回、授業の際、提示します。教科書を指定しますが、学生諸君は出来るだけインターネットに接続可能な携帯電話やiphoneなどの機器を授業の際に、持参していただければ幸いです。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 教科書にそって下記の順序で授業します。()内は担当教員です。 【授業計画】 第1回 医学の基本(黒滝) 第2回 医学の歴史(神原) 第3回 人体の構造と機能(黒滝) 第4回 環境・文化と人間の健康(神原) 第5回 病気の基本(黒滝) 第6回 病院・病態別の病気の分類(神原) 第7回 器官・領域別の病気の種類(黒滝) 第8回 病気の診断(黒滝) 第9回 病気の治療と予防(黒滝) 第10回 医療の基本(黒滝) 第11回 医療の現場(黒滝) 第12回 社会医学の視点: 公衆衛生学(黒滝) 第13回 予防医療(黒滝) 第14回 社会の医療情勢と医療体制(黒滝) 第15回 医療法規と医療行政(黒滝)			
教科書・参考書等 教科書は医学概論(中島泉著, 南江堂, 2015)を指定します。他に、インターネット上にある情報を適宜参考にします。ネットは情報収集に有用ですが、一方でそれらの情報は玉石混合です。授業ではどのようにインターネットを利用するかについても指導します。さらに教科書とは別に「病気が見える」シリーズ(医療情報科学研究所, 2017)			

を参考書として掲げます。このシリーズは医学生、看護学生を含む全ての医療系学生向けに書かれている本で、内容は充実しています。

オフィスアワー 基礎臨床研究棟7階 水曜日午前中を歓迎します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生諸君には最初から高度な知識は求めませんが、真摯な学習態度を期待しています。教室で会えることを楽しみにしています。なお、本授業では、将来の公認心理師の国家試験を念頭においた授業であり、その点では学術面では物足りないという学生もいるかもしれません。そう感じた学生諸君は直接に、相談ください。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2PSY-cbaM-20-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 780030) 心理学統計法 Psychological Statistics	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心 理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cbaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子	関連授業科目	統計学, 心理学実験Ⅰ, 心理学実験Ⅱ, 心理学 研究法, 臨床心理学基礎研究Ⅰ, 臨床心理学基礎研究Ⅱ, 臨床心理学 研究Ⅰ, 臨床心理学研究Ⅱ, 卒業研究	
	履修推奨科目	統計学, 心理学実験Ⅰ, 心理学実験Ⅱ	
学習時間 講義・演習90分×15回＋自学自習			
授業の概要 心理学の研究を行う場合、心理学統計法の知識が不可欠です。なぜなら、研究計画を立案するためには、統計学の知識をもとに研究論文の内容を正しく理解する必要があるからです。また、研究で得られた量的データの多くは、統計手法を用いて解析します。この授業では、心理学における統計学の特徴・手続き・留意点を理解し、演習を通して統計解析技術を学びます。特に演習では、パソコンで統計解析ソフト（SPSSなど）を用いて、データを実際に解析します。この授業を通して、心理学実験Ⅰ、心理学実験Ⅱ、卒業研究で必要な知識を学びます。			
授業の目的 心理学研究の中で用いられている統計的手法がどのようなものか理解し、そこで示されている結果を正しく理解することを目指します（DPの「知識・理解」に対応）。また、適切な心理統計を選択し、データを解析できるようになることを目的とします（DPの「問題解決・課題探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 心理統計学の基礎的知識を理解し、説明することができる。 2. 心理統計学を利用した研究の結果を解釈できる。 3. 研究目的によって、適切な心理統計を具体的に述べるすることができる。 4. 統計解析ソフトを適切に使用することができる。			
成績評価の方法と基準 小テスト80%、授業態度20%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 この授業では、講義に加え、演習を含めたグループワークを行います。また、毎回小テストを実施します。			
1. オリエンテーション：記述統計の基礎 2. 正規分布とデータの標準化 3. ピアソンの積率相関係数 4. 推測統計の基礎 5. 帰無仮説、有意水準 6. ノンパラメトリック検定：2項検定、 χ^2 検定 7. 対応のあるt検定 8. 対応のないt検定 9. 1要因分散分析 10. 1要因分散分析の下位検定 11. 2要因分散分析 12. 2要因分散分析の下位検定 13. 多変量解析1：単回帰分析、重回帰分析 14. 多変量解析2：因子分析、クローンバックの α 係数 15. 多変量解析3：共分散構造分析			
【自学自習について】 できるだけわかりやすい授業になるよう工夫しますが、授業内容は難解と思われるので、積極的に予習・復習をしてください。			
教科書・参考書等 教科書：森 敏明・吉田寿夫（1990）. 心理学のためのデータ解析テクニカルブック 北大路書房 3,592円＋税 参考書：山田剛史・村井潤一郎（2004）. よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房 2,800円＋税			
オフィスアワー 三木キャンパス講義棟3階 火曜日5時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業は毎回出欠をとります。病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。 予習復習をして授業に臨んでください。なお、学生支援センター・バリアフリー支援室の塩入美希先生が講義・演習補助に入りますので、指示に従ってください。			
教員の実務経験との関連			

ナンバリングコード B2PSY-cbaM-20-Pg2 授業科目名 (時間割コード: 780040) 心理学実験 I Psychological Experiment I	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cbaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Pg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子	関連授業科目	統計学, 心理学統計法, 心理学実験Ⅱ, 心理学研究法, 臨床心理学基礎研究Ⅰ, 臨床心理学基礎研究Ⅱ, 臨床心理学研究Ⅰ, 臨床心理学研究Ⅱ, 卒業研究	
	履修推奨科目	統計学, 心理学統計法, 心理学実験Ⅱ	
学習時間 講義90分×11回 + 実習90分×4回 + 自学自習(レポート作成)			
授業の概要 この授業では、心理学の研究法の一つである実験法を用いて、得られたデータを客観的事実に基づいて記述する技能を身につけます。具体的には、4つの実験を通して、データを解析し、レポートを記述することにより、心理学研究を行うために必要な基本的技能を学びます。			
授業の目的 この授業では、心理学実験の概要について学ぶとともに、心理学実験を遂行する力を身につけることを目的とします。心理学実験の概要については、心理学実験の考え方とデータ処理の方法について理解することが不可欠です。授業では、過去の心理学実験の追試を行う実習を通して、実験の背景にある考え方を理解し(DPの「知識・理解」に対応)、実験を遂行して結果をまとめる技能を身につけます(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 心理学実験の考え方を説明することができる。 2. 心理学実験を遂行することができる。 3. データを分析することができる。 4. 心理学研究のフォーマットに則って、実験結果をレポートにまとめることができる。			
成績評価の方法と基準 レポート80%, 実習態度20%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 グループで協力しながら、4種類の実験を行います。			
第1回 オリエンテーション：科学としての心理学 第2回 ミュラー・リェル錯視(1)：測定、方法の記述について 第3回 ミュラー・リェル錯視(2)：ピアレビュー、結果の解析、結果の記述について 第4回 ミュラー・リェル錯視(3)：ピアレビュー、問題の記述について 第5回 ミュラー・リェル錯視(4)：ピアレビュー、考察・引用文献の記述について 第6回 ストループ効果(1)：測定、方法の記述について 第7回 ストループ効果(2)：ピアレビュー、結果の解析、結果の記述について 第8回 ストループ効果(3)：ピアレビュー、問題・考察・引用文献の記述について 第9回 訓練の転移(1)：測定、方法の記述について 第10回 訓練の転移(2)：ピアレビュー、結果の解析、結果の記述について 第11回 訓練の転移(3)：ピアレビュー、問題・考察・引用文献の記述について 第12回 触2点域(1)：測定、方法の記述について 第13回 触2点域(2)：ピアレビュー、結果の解析、結果の記述について 第14回 触2点域(3)：ピアレビュー、問題・考察・引用文献の記述について 第15回 まとめ			
【自学自習について】 この授業では、グループで行った実験について、個人でレポートにまとめます。 授業期間内に計4つのレポートを作成します。			
教科書・参考書等 教科書：宮谷真人・坂田省吾(編)(2009). 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 2,800円+税			
オフィスアワー 三木キャンパス講義棟3階 火曜日昼休み			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 心理学のテーマで卒業論文を書く場合に必要となる知識・技能を習得することを目指します。 なお、受講生はレポートの執筆にあたり、下記URL「執筆・投稿の手びき(日本心理学会)」を適宜参照してください。 https://psych.or.jp/publication/inst/ 授業中にパソコンで作業をしますので、USBメモリー等の記憶媒体を必ず持ってきてください。 なお、学生支援センター・バリアフリー支援室の塩入美希先生が講義・演習補助に入りますので、指			

示に従ってください。
教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2PSY-cbaM-20-Pg2 授業科目名 (時間割コード: 780050) 心理学実験Ⅱ Psychological Experiment Ⅱ	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cbaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Pg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子	関連授業科目	統計学, 心理学統計法, 心理学実験Ⅰ, 心理学研究法, 臨床心理学基礎研究Ⅰ, 臨床心理学基礎研究Ⅱ, 臨床心理学研究Ⅰ, 臨床心理学研究Ⅱ, 卒業研究	
	履修推奨科目	統計学, 心理学実験Ⅰ, 心理学統計法	
学習時間 講義90分×11回+実習90分×4回+自学自習(レポート作成等)			
授業の概要 心理学研究法の一つである調査法について, その理論や手続きを学びます。授業では, グループごとに研究計画を立案・実施し, 心理学的調査を行うための技能を体験的に学習します。			
授業の目的 この授業では, 心理学的な調査研究の概要について学ぶとともに, 調査研究を遂行する能力を身につけることを目的とします。授業では, グループごとに調査研究の計画を立案・実施することを通して, 調査法の背景にある考え方(DPの「知識・理解」に対応)と調査結果をまとめる技能を身につけます(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 心理学的な調査研究の考え方を説明することができる。 2. 心理学的な調査研究を遂行することができる。 3. 心理学研究のフォーマットに則って, 調査結果をレポートにまとめることができる。 4. 自ら心理学の研究を立案, 実施することができる。 5. グループで協力して活動することができる。			
成績評価の方法と基準 レポート60%, 発表20%, 実習態度20% ただし, グループで活動するため, 授業と活動への参加は前提です。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 グループで協力しながら調査の計画立案と実施を行います。			
第1回 オリエンテーション 第2回 質問紙法の概要 第3回 テーマの決定と予備調査の計画 第4回 予備調査1の実施: 調査の実査 第5回 予備調査1の分析: 統計分析の復習 第6回 予備調査2の計画: 調査の準備 第7回 予備調査2の実施: 調査の実査 第8回 予備調査2の分析(1): 統計分析の復習 第9回 予備調査2の分析(2): 統計分析の復習 第10回 本調査の計画: 調査準備 第11回 本調査の実施: 調査の実査 第12回 本調査の分析(1): 統計分析の復習 第13回 本調査の分析(2): 統計分析の復習 第14回 レポートの作成 第15回 プレゼンテーション			
【自学自習について】 この授業では, グループごとに独自に研究計画を立て, 調査を実施します。 研究計画を立てるためには, 多くの文献を調べて, ディスカッションを行う必要があります。 授業中にも作業の時間は確保しますが, 授業時間外にもグループでの作業を積極的に行ってください。			
教科書・参考書等 宮谷真人・坂田省吾(編)(2009). 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 2,800円+税			
オフィスアワー 三木キャンパス講義棟3階 月曜日昼休み			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 心理学のテーマで卒業論文を書く場合に必要となる知識・技能を習得することを目指します。 なお, 受講生はレポート執筆にあたり, 下記URLの「執筆・投稿の手びき(日本心理学会)」を適宜参照してください。 https://psych.or.jp/publication/inst/ 授業中にパソコンで作業をしますので, USBメモリー等の記憶媒体を必ず持ってきてください。 なお, 学生支援センター・バリアフリー支援室の塩入美希先生が講義・演習補助に入りますので, 指			

示に従ってください。
教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2PSY-bdcM-20-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 780060) 臨床心理学概論 Introduction to Clinical Psychology	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bdcM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 竹森 元彦	関連授業科目	カウンセリング概論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 臨床心理学について、歴史や事例、発達理論・人格理論、対象の理解と援助の方法などの基本的な知識について講義を行う。また、カウンセリングの演習を行って、カウンセリング的なコミュニケーションについて体験をする。臨床心理学の基礎的な学習と演習を通して、臨床心理学の基本的な問題や知識、援助の姿勢について身につける。テキストを用いる。(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
授業の目的 臨床心理学の授業は、人とのコミュニケーションや対人援助をめざす発達臨床コースのカリキュラムにおいて重要な位置にある。臨床心理学の講義とグループ演習を通して、人の心の理解の仕方や関わり方について学習する。その結果、人とかかわる仕事についたり、援助をする仕事を目指す上での基礎的な知見を身につけることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 心とは何か、人と人の関わりとは何かについて、臨床心理学の知識や理論から説明することができる。 2. グループでの演習や振り返りを通して、自分の学びについて説明することができる。 3. 臨床心理学の基本的な知識や理論を、人を援助する際に生かすことができる。			
成績評価の方法と基準 出席と小レポート30%、レポート70%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 印刷物を配布して、それに沿って行う。 授業で取り上げた内容について、その都度、課題を課すので、図書館にて図書や文献を調べること。 毎回小レポートを課す。			
第1回 オリエンテーション (授業の進め方、内容、成績評価、臨床心理学とは) 第2回 臨床心理学の分野とは? 対象とする人は? 第3回 心理面接の流れ、カウンセリングとは、精神的な病や心理的不適応とは、専門職の職責 第4回 心理面接の理論 来談者中心療法、 *LIVE カウンセリング 第5回 心理療法の理論 精神分析・対象関係論 事例検討 第6回 心理療法の理論 行動療法・認知行動療法 事例検討 第7回 振り返りセッション・レポート 第8回 心理療法の理論 家族療法・コミュニティアプローチ 事例検討 第9回 ナラティブ・アプローチ、日本の心理療法 事例検討 第10回 箱庭療法、トラウマ 心理相談室、箱庭に触れる。事例検討 第11回 心理アセスメントとフォードバック、心理臨床家に求められる倫理、伝え方 第12回 教育分野・子育てにおける心理臨床 不登校、いじめ、発達障害 第13回 医療分野における心理臨床 第14回 福祉・司法分野の心理臨床 第15回 振り返りセッション・レポート			
教科書・参考書等 テキスト: 購入のこと。よくわかる臨床心理学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ) ミネルヴァ書房 3240円 オフィスアワー 講義終了後、相談を引き受けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 印刷資料を用いながら進めます。テキストも参照します。レポートなどが適時出ます。			
教員の実務経験との関連 精神神経科クリニックに非常勤勤務。主に、カウンセリングを担当している。その実務経験をもとに、臨床心理学概論の講義を行います。			

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 780090) 人体の構造と機能及び疾病Ⅱ(解剖学入門) Structure and Function of Human Body, and Diseases Ⅱ(Introduction to Anatomy)	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bcxM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 荒木 伸一, 三木 崇範	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自主学习			
授業の概要 解剖学は、正常の人体の構造・仕組みを形態学的な側面から理解することであり、その知識は医学および医療に関連する全分野において必要とされ、医学の中でも最も基礎的な学問である。この授業では、臨床心理学が関わる様々な医学分野の基盤として「解剖学の基礎：人体の成り立ち」を講義形式で学ぶ。			
授業の目的 正常の人体の構造・仕組みを理解することは、臨床心理学を修めるうえで必要となる医学系科目の基礎として必須である。人体の成り立ちを細胞レベルから器官・系統へと階層的に理解し(DP「知識・理解」に対応)、更に構造と機能の関連、病気との関わり、心と身体の問題について考察する能力を培う(DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 解剖学とはどういう学問かを説明できる。 2. 人体を構成する細胞と組織について説明できる。 3. 各器官・系統の構造を機能と関連づけてを説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末テスト 90%, 出席状況 10%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回：解剖学とは 細胞、組織から器官、系統 (荒木) 第2回：骨と筋：運動器系 (荒木) 第3回：消化と吸収：消化器系 (荒木) 第4回：呼吸と循環：循環器・呼吸器系 (江上) 第5回：脳と神経：中枢神経系・末梢神経系(自律神経系含む) (鈴木) 第6回：感覚：感覚器系(特殊感覚、体性感覚、内臓感覚)(太田) 第7回：泌尿器：腎臓と尿路系(三木) 第8回：生殖器：男性・女性生殖器と妊娠(三木)			
【授業及び学習の方法】 教科書とPowerPointで講義を行います。教科書を読むなどの事前準備を行ってください。			
教科書・参考書等 教科書 美しい人体図鑑、監修 梶原哲郎、笠倉出版社、2013年、1,000円+税			
オフィスアワー 月曜日 12～13時 基礎臨床研究棟 5F 組織細胞生物学 anatomy2@med.kagawa-u.ac.jp 月曜日 12～13時 基礎臨床研究棟 5F 神経機能形態学 anatomy1@med.kagawa-u.ac.jp 質問・相談は随時可能ですが、メール等でアポイントメントを取って来てください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義の前に、その範囲の教科書を読んで予習をしてきてください。			
教員の実務経験との関連			

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx1 授業科目名 (時間割コード： 780100) 人体の構造と機能及び疾病Ⅲ (生理学入 門) Structure and Function of Human Body, and Diseases Ⅲ (Introduction to Medical Physiology)	科目区分	時間割 前期月1	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心 理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bcxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 平野 勝也, 藤原 祐一郎	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 “心”と”体”の状態は相互に影響を及ぼします。脳の活動は心の状態に直結するとともに、心と体の相互作用に中心 的な役割を果たしています。一方、体の状態は、様々な調節機構によってその恒常性が保たれています。前半4コマ の講義では、生体の恒常性を維持する自律神経系と内分泌系の働きについて講義し、心の状態が反映される体の機能 の代表として循環器系について解説します。後半の4コマの講義では、脳の電氣的活動を司る神経細胞の興奮と伝達 機構について総論的に講義し、高次脳機能、 感覚機能、運動機能について各論として取り上げて解説します。			
授業の目的 体の機能とその動作の仕組みを理解する学問領域が生理学です。 1. 生体の恒常性維持の基本的な仕組みを理解する。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応) 2. 臨床心理学の礎となる脳における情報処理機構としての、脳の機能を理解する。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自律神経系の構造と機能について説明することができる。 2. 体液性調節機構の構造と機能について説明することができる。 3. 心臓血管系の機能とその調節機構について説明することができる。 4. 脳の電氣的活動について説明することができる。 5. 「脳への情報入力」「脳での情報統合」「脳からの情報出力」機構の概要について理解する ことができる。			
成績評価の方法と基準 期末テスト100%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 講義資料、PowerPointなどを用いて教員が講義形式で授業を行います。循環器系の授業では、血圧と脈拍測定の実 習も行います。 【授業計画】 恒常性の生理学 (平野勝也) 1. 生体の自律神経性調節：闘争か逃避か反応 2. 生体の体液性調節①：ストレス応答 3. 生体の体液性調節②：体液・代謝調節 4. 循環器系の制御機構：心臓と血管の働き 神経生理学 (藤原祐一郎) 5. 神経細胞の興奮と伝達、高次脳機能 6. 脳神経と感覚機能 7. 感覚機能 (体性感覚) 8. 運動機能 (筋肉の収縮) 【自学自習に関するアドバイス】 日常において、脳神経の活動を意識しながら生活する。心理と結びつけて考えることができれば尚良い。			
教科書・参考書等 教科書：特に指定しません。 参考書： 生きているしくみがわかる生理学 大橋俊夫・河合桂子著 医学書院 ISBN978-4-260-02833-2 脳科学の教科書「神経編」、理化学研究所脳科学総合研究センター編、岩波書店 ISBN13-9784005006809			

オフィスアワー 平野勝也：木曜日5時限目
藤原祐一郎：月曜日5時限目

【研究室の場所】

三木町医学部キャンパス 基礎臨床研究棟6階
自律機能生理学（平野勝也）・分子生理学（藤原祐一郎）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

平野勝也

授業においては双方向性の講義を心がけます。講義内容について教員に質問したり、討論して講義に積極的に取り組んでください。

研究室ホームページ：<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~cardiovasc-physiol/index.html>

メールアドレス：khirano@med.kagawa-u.ac.jp（個人）・physiol2@med.kagawa-u.ac.jp（研究室）

藤原祐一郎

出席が原則です。

教員の実務経験との関連

平野勝也：1985年に医学部を卒業し、2年間の循環器内科医としての臨床修練の後に、基礎研究に従事し、以来30年以上にわたり循環器領域の生理学を専門にします。特に、血圧や臓器血流を調節する血管内皮細胞や平滑筋細胞の働き、血液凝固と循環器病との関連を明らかにする研究を行っています。臨床経験と基礎医学研究の実績をもとに医科生理学の教育を担当しています。自主的に研究活動に参加する学生も受け入れています。事実と意見を明確に区別する科学的姿勢の育成を主眼にして、学部大学院教育に当たっています。

藤原祐一郎：2001年に医学部を卒業し、一貫して細胞の電気的活動を司るイオンチャネルや受容体に関する研究を行っています。基礎医学研究に興味を持つ学生を増やすため、最先端の研究内容を盛り込んだ講義を行うことを目指しています。

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx1 授業科目名 (時間割コード： 780110) 人体の構造と機能及び疾病Ⅳ (生化学・ 分子生物学入門) Structure and Function of Human Body, and Diseases IV(Introduction to Biochemistry and Molecular Biology)	科目区分	時間割 前期金1	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心 理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bcxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 上田 夏生, 神鳥 成弘, 竹崎 直子, 中村 隆範	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習			
授業の概要 生化学と分子生物学は、出生、成長、老化、健康増進、病気、遺伝など、さまざまな生命現象を原子や分子といった物質レベルで理解しようとする学問で、生命科学(ライフサイエンス)の基盤となるものです。心理援助者が接する患者やクライアントの症状、病因、治療法などを理解するうえで必要となる医学的知識の根源をなすもののひとつと言えます。本授業では、人体に関する生化学と分子生物学の基礎知識と、物質レベルでの生命現象の捉え方を学習し、それらがさまざまな疾患を含む医学全般の理解に必須であることの認識を深めることを目標とします。授業は4名の教員が分担する講義で、その内容には生体分子の種類と構造、物質代謝と生体エネルギー、タンパク質と核酸の立体構造と機能、遺伝の仕組み、細胞情報伝達と細胞の増殖・分化などが含まれます。			
授業の目的 人体におけるすべての生命現象が物質とその化学的変化によって生じることを理解する。 そのために必要な生化学・分子生物学の基礎知識を修得する(DP「知識・理解」)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 人体を構成する生体分子、物質代謝、およびエネルギー産生の概略を説明できる。 2. タンパク質と核酸(DNAとRNA)の立体構造と機能、タンパク質の構造異常が引き起こす疾患について説明できる。 3. 遺伝の仕組み、遺伝子型と表現型の関係について説明できる。 4. 細胞情報伝達と細胞の増殖や分化の仕組みについて説明できる。			
成績評価の方法と基準 6月21日(金)8:50-10:20に実施予定の試験により成績評価します。不合格者については再試験を行いません。8回の授業のうち、6回以上出席しなければ試験を受験できません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 教科書または配付資料に沿って講義を行います。			
【授業計画】 4/12(金)第1回 ヒトの生体分子(上田夏生) 4/19(金)第2回 タンパク質と核酸の立体構造とセントラルドグマ(神鳥成弘) 4/26(金)第3回 ヒトの代謝と生体エネルギー(上田夏生) 5/10(金)第4回 タンパク質の機能と疾患(神鳥成弘) 5/17(金)第5回 遺伝の仕組み(竹崎直子) 5/24(金)第6回 遺伝子型と表現型(竹崎直子) 5/31(金)第7回 生理活性物質(細胞増殖因子、ホルモン)の構造と役割(中村隆範) 6/7(金)第8回 受容体を介した生理活性物質の細胞情報伝達機構(中村隆範)			
【自学自習に関するアドバイス】 短期間で多くの内容を学習しますので、復習は必須です。			
教科書・参考書等 「基礎からしっかり学ぶ生化学」 羊土社、山口雄輝/編著、成田央/著、 定価2,900円+税、2014/10/15発行、ISBN 978-4-7581-2050-0			
オフィスアワー 随時：e-メールによるアポイントメントにより、質問の時間を設けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 初回から教科書を使用して授業を進めますので、事前に購入してください。			
教員の実務経験との関連			

ナンバリングコード B2PSY-bcxM-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード： 780130) 知覚・認知心理学 Psychology of Perception & Cognition	科目区分	時間割 後期末2	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心 理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子	関連授業科目	心理学概論	
	履修推奨科目	心理学概論	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 本授業では、知覚、記憶、感情、問題解決などのテーマをとりあげ、人間の知覚・認知機能についての基礎的知識の習得を目指します。また、それらの知覚・認知研究の成果が、教育や臨床、人間関係にどのように応用できるのか検討し、人間の心の働きとその仕組みについての理解を深めます。			
授業の目的 ヒトの感覚・知覚、認知・思考の機序ならびにその障害を理解し、概説できることを目指します (DPの「知識・理解」に対応)。また、知覚・認知研究の成果を日常生活でどのように役立てられるか考察します (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. ヒトの感覚・知覚等の機序について説明できる。 2. ヒトの認知・思考等の機序について説明できる。 3. 感覚や認知に関する機序を理解した上で、その障害について説明できる。 4. 知覚・認知研究の成果から、日常生活への応用方法を提案できる。			
成績評価の方法と基準 小テスト40%、レポート40%、授業態度20%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1回の授業では、講義と小テストへの回答ならびにレポート作成を求めます。また、授業内容を理解するため、適宜グループワークを取り入れて授業を進めます。			
第1回 オリエンテーション：認知心理学の歴史 第2回 知覚 第3回 高次の知覚 第4回 注意 第5回 表象 第6回 記憶 第7回 言語理解 第8回 問題解決 第9回 推論 第10回 創造性 第11回 判断と意思決定 第12回 認知と感情 第13回 認知発達 第14回 認知・思考の障害 第15回 まとめ			
【自学自習について】 この授業では、知覚・認知心理学を使って日常の問題や障害を理解することを目的としています。そのため、授業の内容をもとに、自分や他者の知覚・認知について積極的に考えてみましょう。			
教科書・参考書等 参考書：道又 爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢 学 (2003). 認知心理学：知のアーキテクチャを探る 有斐閣 2,100円＋税 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・荻原 滋 (2010). 認知心理学 有斐閣 3,400円＋税			
オフィスアワー 三木キャンパス・講義棟3階 木曜日昼休み			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業は毎回出欠をとります。なお、病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。			
教員の実務経験との関連			

ナンバリングコード B2PSY-bcxM-20-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 780150) 発達心理学 Life Span Developmental Psychology	科目区分	時間割 前期火1	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcxM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 林 智一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 人間は一生を通じて成長・発達し続ける。誕生から死を迎えるまでの人生全体を視野に入れて、こころの変化の特徴やプロセスを明らかにするのが発達心理学の特徴である。 この授業では、人間の生涯の発達について、乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期のこころの特徴を明らかにし、さらに発達のみずきやそれに対する心理的援助についても考察する。なお、内容が抽象的になりすぎないように、映画などを具体的事例として利用する。			
授業の目的 本授業では、青年期までのこころの発達だけでなく、成人発達にウエイトを置いて授業を行う。人間のこころの発達には、成長・獲得だけでなく衰退・喪失もまた含まれている。多くが青年期にある受講者には遠い未来のこのように思われるかもしれないが、自らも老いて病み、やがて死にゆく存在である。 したがって、単なる援助対象としてではなく、それぞれの発達段階にある人々、発達上の障がいや有する人々の心情をわがこととして理解し、そこに寄り添う姿勢を獲得することを目的とする。 (DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 発達概念について説明できる。 2. 各年代の心理的特徴について説明できる。 3. 各年代の心理的特徴に関する個別性、障がいとその心理的援助について説明できる。 4. 生涯を通じての発達という視点で人間を理解し、その心理について説明できる。			
成績評価の方法と基準 ・レポート+受講態度(出席、ミニレポートの提出など)など50% ・定期試験50%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回 こころの一生をどうとらえるか 第2回 乳児期：胎児・新生児・乳児の能力、愛着と母子関係 第3回 幼児期：母親からの分離-個体化、幼児の遊びの意味 第4回 児童期：社会性の発達と友人関係、学校への適応 第5回 思春期：親子関係・友人関係、心理的失調 第6回 青年期：アイデンティティ、社会に出るための模索 第7回 成人初期：仕事、配偶者選択、親になることと「親になれない」親 第8回 中年期：親子関係、配偶者関係、老親の介護と看取り、女性の中年期 第9回 高齢期①：死、認知症 第10回 高齢期②：施設入所、心理的援助としてのライフレビュー 第11回 映画にみる子どもの対象喪失と喪の仕事① 第12回 映画にみる子どもの対象喪失と喪の仕事② 第13回 映画にみるこころのライフサイクル① 第14回 映画にみるこころのライフサイクル② 第15回 レポートのピアレビュー 【授業及び学習の方法】 テキストをもとにして、授業および小グループでの演習等を行う。また、映画を教材として利用し、教員によるミニレクチャー後、映画に関するレポートを執筆する。			
教科書・参考書等 教科書 ・岡本 祐子・深瀬 裕子(編著) エピソードでつかむ生涯発達心理学 ミネルヴァ書房 ・木下是雄 レポートの組み立て方 筑摩書房(ちくま文庫) 参考書等 ・国語辞典(電子辞書でも可。レポートの相互評価時に必要です) ・心理学事典(平凡社、誠信書房など)			
オフィスアワー 火 12:00-12:50 林研究室(講義棟3階)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業回数の3分の2以上の出席がないと、評価は受けられません。

教員の実務経験との関連

病院・老人保健施設の心理療法士や、小学校・中学校・高校・高専（年代的には高校～短大に相当）のスクールカウンセラーの実務経験を有する担当教員が、ライフサイクル各期のクライアントとの心理療法経験を活かして、生涯にわたるこころの発達に関する講義を行います。

ナンバリングコード B2PSY-bcdM-20-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 780180) 教育・学校心理学 Educational and School Psychology	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 中村 多見	関連授業科目	心理学概論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、教育心理学と学校心理学の知見を学び、教育現場における問題や心理社会的課題の支援や援助に向けた心理援助職を目指す者としての基礎を培います。教育現場の多様なニーズを把握・分析し、多職種連携・地域連携を通じた心の健康の保持増進について考えます。			
授業の目的 1) 教育現場において生じる問題及びその背景について理解する。(DP「b 知識・理解 (21世紀型市民及び学士 (臨床心理学) として)」に対応) 2) 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解する。(DP「b 知識・理解 (21世紀型市民及び学士 (臨床心理学) として)」に対応) 3) 心理援助職を目指す者としての態度や倫理について認識する。(DP「c 問題解決・課題探求能力」、「d 倫理観・社会的責任」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 教育現場において生じる問題を列挙し、その背景について説明することができる。 2) 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について具体的に述べるすることができる。 3) 心理援助職を目指す者としての態度や倫理について説明することができる。			
成績評価の方法と基準 コメントカード (10%)、レポート (30%)、期末テスト (60%) で評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回 オリエンテーション：教育現場で公認心理師に期待されること 第2回 教育・学校心理学を支える理論①－教育学 第3回 教育・学校心理学を支える理論②－学校組織と教育制度 第4回 教育・学校心理学を支える理論③－特別支援教育の基盤 第5回 教育・学校心理学を支える理論④－生徒指導・教育相談・キャリア教育 第6回 教育・学校心理学を支える理論⑤－心理学的基盤 (発達と教育) 第7回 教育・学校心理学を支える理論⑥－心理学的基盤 (臨床と社会) 第8回 教育・学校心理学を支える心理学的援助の方法と技法①－心理学的アセスメント 第9回 教育・学校心理学を支える心理学的援助の方法と技法②－スクールカウンセリング 第10回 教育・学校心理学を支える心理学的援助の方法と技法③－コンサルテーション 第11回 教育・学校心理学を支える心理学的援助の方法と技法④－コーディネーションとチーム援助 第12回 子どもをめぐる課題への支援 第13回 家族・地域をめぐる課題への支援 第14回 教師をめぐる課題への支援 第15回 学校をめぐる課題への支援 【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、適宜グループワークを取り入れて講義内容の理解を深めるとともに、心理援助職を目指す者としての人間性の涵養を図ります。毎回の出席は、授業終了時のコメントカードの提出をもって認めます。コメントカードは授業開始時のみに配布しますので、遅刻しないよう十分に注意してください。最後に、授業時間外の学習として数回のレポートを課します。教科書や関連本等を読んで、テーマに沿った内容を分かりやすくまとめましょう。			
教科書・参考書等 教科書：日本学校心理学会編・石隈利紀他責任編集 (2016)『学校心理学ハンドブック 第2版 「チーム」学校の充実をめざして』教育出版。 参考書：授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 基本的には授業終了後の火曜日16:10～16:30の間に対応します			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

必ず指定する教科書を購入してください。授業前に教科書の関連箇所を必ず読み、おおよその講義内容を把握して受講してください。

教員の実務経験との関連

教育機関にて学生相談員を兼担。学生相談に従事した実務経験をもとに、教育・学校心理学について講義を行います。

ナンバリングコード B2PSY-bcdM-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 780200) 社会・集団・家族心理学 Social, Group and Family Psychology	科目区分	時間割 前期月2	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 野口 修司	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 人間は望むか望まないかにかかわらず、他者や集団との関係を避けて生きていくことは困難である。同様に、人間の心理においても個人と他者、個人と集団との相互作用において影響を与えたり、与えられたりすることは避けられない。その際、様々な関係性(家族、友人、職場関係等)の考察において重要となってくるのが「システム」と「コミュニケーション」という視点である。本授業では、この2つの視点を中心としながら、社会・集団・家族における心理的関連について取り扱っていく。			
授業の目的 本授業の目的は、「システム」と「コミュニケーション」という2つの視点に基づきながら、対人関係および集団における人間の心理や行動の過程と、個人と他者および集団が相互に与える影響について理解することである(DP「知識・理解」に対応)。後半では、臨床心理学において「システム」と「コミュニケーション」を活用した心理療法である家族療法およびブリーフセラピーに焦点を当て、社会・集団・家族における心理援助の具体的な理論および技法について、事例等を踏まえながら紹介する(DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 対人関係並びに集団における人の意識及び行動に関する心の過程について、説明することが出来る。 2) 人の態度及び行動について、説明することが出来る。 3) 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、説明することができる。			
成績評価の方法と基準 出席および授業態度(20%) + 中間テスト(40%) + 期末テスト(40%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回 オリエンテーション:「システム」と「コミュニケーション」 第2回 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程(1) 第3回 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程(2) 第4回 人の態度及び行動(1) 第5回 人の態度及び行動(2) 第6回 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響(1) 第7回 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響(2) 第8回 中間テスト 第9回 家族療法およびブリーフセラピーの基礎理論 第10回 MRIアプローチの理論と技法(1):悪循環の見立てと介入 第11回 MRIアプローチの理論と技法(2):事例から理解する 第12回 BFTCアプローチの理論と技法(1):例外の発見と拡張 第13回 BFTCアプローチの理論と技法(2):事例から理解する 第14回 構造的家族療法アプローチの理論と技法 第15回 これまでの振り返り 【授業及び学習の方法】 興味を持った内容については、積極的に本やインターネットなどで調べましょう。授業の内容を知識としてだけ受け取るのではなく、自分の日常生活にどのように関わりがあるのかを考えることによって、興味や理解はさらに深まります。			
教科書・参考書等 適宜、資料を配布する。			
オフィスアワー 月曜 12:00 ~ 13:00 (事前にアポイントメントを取ることに)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 成績は出席・授業態度、中間テスト、期末テストの3点から評価しますので、しっかりと授業に出席して講義を聴いてもらうことが重要となるでしょう。			
教員の実務経験との関連 これまで臨床心理士として、不登校・引きこもり等への家族支援、スクールカウンセリング、行政職員への			

メンタルヘルス支援、大規模災害における被災者支援等に従事。これらの実務経験に基づきつつ、社会・集団・家族心理学に関する講義を行います。

ナンバリングコード B2PSY-cbdM-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード： 780250) 心理的アセスメント Basic principle of Psychological Assessment 心理的アセスメントの基礎と実際	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cbdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 橋本 忠行	関連授業科目	心理演習Ⅲ (心理的アセスメント演習)	
	履修推奨科目	感情・人格心理学	
学習時間 講義・演習・実習90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 公認心理師法第2条では、公認心理師の業のひとつとして「心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること」が定められている。臨床心理学では「心理アセスメント」がそれに該当し、方法として「面接法」「観察法」「検査法」という分類がなされている。この科目では、まず心理アセスメントの目的、定義、倫理、歴史などの概要について講義形式で理解を深める。その後検査法を中心としながらもそれ以外の方法も含め、それぞれの特徴と標準化された手続きについて実習を通して体得する。重要なテーマについては、小グループでのディスカッションを行う。			
授業の目的 医療、教育、福祉、司法、そして産業など、幅広い領域での対人支援を志す医学部臨床心理学科の学生には、対象者と接する際に主観的なこころの理解と客観的なこころの理解のバランスをとることが求められる (DP「知識・理解」に対応)。心理検査をはじめとした心理アセスメントは後者の方法であり、先入観やバイアスにとらわれず、分け隔てのない公平な視点を身につけることも目的となる。そしてその臨床的な実施のためには、様々な技術が必要となる (DP「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。対象者の長所と短所、偏り、バランスといった点に注目し、その人らしさを描き出すための技法を身につけていく。またチーム医療をはじめとした、多職種連携・協働のための心理アセスメントについても考える。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 心理的アセスメントの目的及び倫理を説明できる 2. 心理的アセスメントの観点及び展開を説明できる 3. 心理的アセスメントの方法 (観察、面接及び心理検査) を理解し、倫理的な配慮のもとに標準化された方法で自ら実施できる 4. 心理的アセスメントの結果と過程について、適切な記録及び報告ができる			
成績評価の方法と基準 期末テスト50%、小レポート50%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 オリエンテーション 第2回 心理アセスメントの目的と定義：アセスメントと診断 第3回 心理アセスメントの倫理：公認心理師法、日本臨床心理士会、APAを中心に 第4回 心理アセスメントの歴史：個人差への注目と検査法の発展 第5回 心理アセスメントの事例研究 第6回 各領域における実践①：医療保健領域 第7回 各領域における実践②：教育領域と司法領域 第8回 実践のための諸知識：テスト・バッテリー、生物-心理-社会モデルとICFモデル、DSM-5の活用、心理検査と診療報酬 第9回 質問紙法によるパーソナリティの理解：MMPI 第10回 児童を対象にした知能検査：WISC-IV① 第11回 児童を対象にした知能検査：WISC-IV② 第12回 心理・教育アセスメント：K-ABC II ① 第13回 心理・教育アセスメント：K-ABC II ② 第14回 作業検査法：内田クレペリン作業検査 第15回 インテーク面接でのアセスメント：語られた・観察された情報の統合と報告 *第9回目-第15回目の実習では、各検査等の適切な記録及び報告を含む			
教科書・参考書等 教科書：「アセスメントの心理学」(橋本忠行・佐々木玲仁・島田修、2015)(培風館) 2,500円税別			
オフィスアワー 時間：火曜日12:00-13:00 場所：講義棟3階橋本研究室			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

2年次前期科目「感情・人格心理学」、3年次前期科目「心理演習Ⅲ（心理的アセスメント演習）」との連続性を意識する。心理検査（第9回-13回）の実習・演習を中心に、学生支援センター・バリアフリー支援室の塩入美希先生が授業補助に入るので、その際には指示に従うこと。

教員の実務経験との関連

医療保健領域（精神科病院、大学病院の精神科等）、司法領域（警察少年サポートセンター）、心理教育領域（心理臨床相談室、心理臨床センター、大学の学生相談室等）で心理アセスメントを実践してきました。

ナンバリングコード B2PSY-cbdM-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 780270) 感情・人格心理学 Psychology of Emotion and Personality	科目区分	時間割 前期火3	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cbdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 橋本 忠行	関連授業科目	心理的アセスメント	
	履修推奨科目	心理演習Ⅲ (心理的アセスメント演習)	
学習時間 講義・実習90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 感情と人格 (パーソナリティ) は人間の生活と切り離すことができず、人間の行動にさまざまな影響を与えている。本科目では、感情心理学と人格心理学についての知識を幅広く習得する。また感情やパーソナリティのアセスメントについて実習を行い、臨床実践のための基礎的な技術を身につけていく。			
授業の目的 本科目は公認心理師カリキュラム (学部) において、基礎心理学のひとつとして「必要な科目」に位置づけられています。「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」とならび、人間のこころの基本的な働きを学ぶ科目です。感情と人格に関する理論を理解し (DP「知識・理解」に対応)、それらに関連した障害や疾患のアセスメントと対応を考えることができる (DP「問題解決・課題探求能力」に対応) ようになることを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 感情に関する理論および感情喚起の機序を説明できる 2. 感情が行動に及ぼす影響について説明できる 3. 人格の概念及び形成過程を説明できる 4. 人格の類型、特性等について説明できる 5. 臨床実践の基礎となる感情・人格のアセスメントを実施できる			
成績評価の方法と基準 期末テスト60%、小レポート40%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回 オリエンテーション 第2回 人格の概念及び形成過程 第3回 人格の類型と特性 第4回 健康なパーソナリティと愛着 第5回 パーソナリティのアセスメント (YG性格検査 / CMI) 第6回 5因子モデルによるパーソナリティのアセスメント (NEO-PI-R人格検査) 第7回 パーソナリティ障害の理解と支援 第8回 パーソナリティ障害の事例研究 第9回 投映法によるパーソナリティのアセスメント (TAT / TCTS) 第10回 感情に関する理論および感情喚起の機序① 第11回 感情に関する理論および感情喚起の機序② 第12回 感情のアセスメント① (POMS2 / BDI-II) 第13回 感情の障害 (抑うつ / 不安) 第14回 感情のアセスメント② (STAI) と事例研究 第15回 感情が行動に及ぼす影響 【授業および学習の方法】 テキスト、配付資料、パワーポイント等を用いて講義を行います。感情と人格のアセスメントについては、実習を通して学びます。			
教科書・参考書等 「感情・人格心理学」 杉浦義典 (編) 遠見書房 2019 2,600円 (予価) ISBN978-4-86616-059-7 その他、資料等を適宜配布する。			
オフィスアワー 時間: 火曜日12:00-13:00 場所: 講義棟3階橋本研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 2年次前期科目「感情・人格心理学」、3年次前期科目「心理演習Ⅲ (心理的アセスメント演習)」との連続性を意識する			
教員の実務経験との関連 医療保健領域 (精神科病院、大学病院の精神科等)、司法領域 (警察少年サポートセンター)、心理教育領域 (心理臨床相談室、心理臨床センター、大学の学生相談室等) で感情・人格の心理アセスメントを実践してきました。			

ナンバリングコード B2PSY-badM-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 780290) 心理学的支援法 (カウンセリング概論) Counseling and Psychological Treatment	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 badM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山田 俊介	関連授業科目 臨床心理学概論、心理演習Ⅰ (コミュニケーション演習)、心理演習Ⅱ (心理面接演習)		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 心理学的支援とは何か、カウンセリングの代表的な理論・方法 (クライアント中心療法、精神分析的な心理療法、認知行動療法) の基礎、様々な心理学的支援法について講義する。			
授業の目的 心理学的支援とは何か、またカウンセリングの基本的な考え方・方法について理解する。 (DP「知識・理解」、「言語運用能力」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. カウンセリングの基礎的な理論や概念について説明することができる。 2. カウンセラーの姿勢や関わり方について具体的に説明することができる。 3. 心理学的支援とは何かについて説明することができる。			
成績評価の方法と基準 毎回の授業のミニ・レポート (25%)、レポート (15%)、期末試験 (60%) により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
(1) 心理学的支援のあり方 (関係者に対する支援、プリバシーへの配慮を含む) (2) クライアント中心療法 (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) クライアント中心療法の実例 (9) 精神分析的な心理療法 (10) " (11) " (12) " (13) " (14) 認知行動療法 (15) 様々な心理学的支援法 (訪問による支援、地域支援、心の健康教育など) 〔自学自習に関するアドバイス〕 *各回の授業で取り上げた内容について、毎授業後、教科書や配布した資料などを参考に復習を行い、内容を整理し、理解を確かなものとする。 *授業時に紹介する参考文献などを手がかりに、心理学的支援やカウンセリングに関する自分の関心や疑問を探求する。			
教科書・参考書等 『やさしく学べる心理療法の基礎』 窪内節子・吉武光世 培風館 2003年 (2,700円) (医学部書店にて販売します)			
オフィスアワー 火曜日12:00～12:50			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ カウンセリングにおいては「聴く」ことが重要となるので、この授業においても真剣に聴く姿勢を大切にしてください。			
教員の実務経験との関連 臨床心理士としてカウンセリングなどに携わってきた経験をもとに、心理学的支援について講義を行います。			

ナンバリングコード B2PSY-dbeM-20-Pg2 授業科目名 (時間割コード: 780310) 公認心理師の職責 (心理師実践職能論) Professionalism of Licensed Psychologists	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心 理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 dbeM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 竹森 元彦, 山田 俊介, 橋本 忠行, 林 智一, 野口 修司	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×10回 実習90分×5回 + 自主学习			
授業の概要 各領域における心理職の業務と役割、関係法規、守秘義務等を講義形式で行う。その後、医療、福祉、矯正・司法領域の4施設・機関において見学実習を、事前学習⇒見学⇒事後学習の順で行う。事前学習では、施設・機関の特性や関係法規と共に心理職の役割や多職種連携についてグループ発表する。現場での見学は、職員から施設・機関の現状、心理職の役割や機能、チーム支援（多職種連携）、関係法規、倫理などの説明を受ける。その後、学内でグループでの事後学習を行って内省・深化・定着をうながす。心理援助職としての学習課題の発見や自己理解を深める。			
授業の目的 公認心理師の職責の授業は、多職種との連携やチーム支援をめざす心理援助者養成のカリキュラムにおいて重要な位置にある。講義と実際の現場の見学を通して、各領域の心理職の業務や役割、チーム支援、守秘義務などの専門的な倫理観を学習する。また、グループでの話し合いを通して、その経験の内省・進化・定着をすすめ、自己理解や社会的責任感も促す。その結果、医療・保健、福祉、産業などの心理援助者を目指す上での基礎的な知見や知識を見学と議論を通して身につけることができる。(DPの「知識・理解」/「倫理観・社会的責任」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 講義や事前学習を通して、保健・医療、福祉、司法・矯正、産業領域における公認心理師の義務と役割、チーム支援、守秘義務のあり方等についての知識を身につける。 2. 保健・医療、福祉、司法・矯正、産業領域の現場の見学と事後学習を通して、それぞれの領域における公認心理師の義務や役割、チーム支援の実際についてより具体的に説明できる。 3. 心理援助者としての学習課題の発見や自己理解を深めることができる。			
成績評価の方法と基準 実習であるので、出席を重視する。各実習施設見学のレポートを課する。討議や実習への参加の姿勢を見る。それらの総合として成績を評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 (オムニバス方式/全15回)			
第1回 オリエンテーション、各領域における心理職の業務と役割、関係法規、守秘義務などの講義 第2回～5回 司法・矯正領域 (少年鑑別所、家庭裁判所) /事前学習、施設見学、事後学習 第6回～8回 医療・保健領域 (総合病院) /事前学習、施設見学、事後学習 第9回～11回 福祉領域 (児童相談所) /事前学習、施設見学、事後学習 第12回～14回 産業領域 (四国電力) /事前学習、施設見学、事後学習 第15回 全体の振り返り、自己課題と課題解決能力の促進、心理職としての生涯学習への準備			
教科書・参考書等 参考書 公認心理師 (学研) 4500円、公認心理師の職責 (公認心理師の基礎と実践) (遠見書房) 2160円			
オフィスアワー 事前学習、事後学習の前後の時間にて。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 現場での実習であるので身を引き締めて、実習を行うことを心掛けてほしい。実習中に、困ったことやわからない			

点があれば、施設担当教員へと相談をすること。実習先への遅刻などをしないこと。

教員の実務経験との関連

精神科神経科クリニックや福祉施設、産業領域での心理臨床経験を有する。

ナンバリングコード B2PSY-cabM-20-Eg2 授業科目名 (時間割コード： 780320) 心理演習Ⅰ (コミュニケーション演習) Counseling Communication	科目区分	時間割 後期火2	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cabM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 山田 俊介, 竹森 元彦	関連授業科目 心理学的支援法 (カウンセリング概論)、心理演習Ⅱ (心理面接演習)	履修推奨科目	
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 カウンセリング・コミュニケーションの基礎として、カウンセラーの基本的な応答・姿勢について、具体的な課題に段階的に取り組む演習を通して学習する。			
授業の目的 カウンセリングにおける1つ1つの具体的な応答の重要性・専門性を理解する。 カウンセリングの応答・姿勢で重要となる点や留意すべき点に気づく。また、専門的な訓練が必要であることを認識する。 (DP「問題解決・課題探求能力」、「言語運用能力」、「知識・理解」)に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. カウンセリングの応答・姿勢について重要な点や留意すべき点を説明することができる。 2. クライエントの発言に対して、共感的理解を心がけて、応答することができる。 3. カウンセラーとしての自分の応答・姿勢について、その特徴や課題を述べることができる。			
成績評価の方法と基準 毎回の演習への取り組み及びミニ・レポート (20%)、クライアント発言に対する具体的な応答に関する試験 (40%)、レポート (40%) により評価する。なお、欠席が4回で不可とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 個人ごとに課題を行った後に、グループでの話し合い、全体での発表・検討を行うという形で演習を進めていく。 (1) オリエンテーション (2) カウンセラーの基本的態度 (3) クライエントの発言への応答：紙上練習法 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) クライエントの発言への応答：聴取練習法 (9) 〃 (10) 〃 (11) カウンセラーからの質問 (12) 〃 (13) クライエントからの質問への応答 (14) 〃 (15) 逐語記録の検討 〔自学自習に関するアドバイス〕 *カウンセリングの応答に関する演習課題を十分な時間をかけて、授業までに確実にしておく。 *各回の授業で行った演習内容について、授業後に振り返りを行い、カウンセリングのやりとりにおいて重要となる点や留意すべき点を整理する。			
教科書・参考書等 特に指定しない。プリントを配布する。			
オフィスアワー 火曜日12:00～12:50			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 段階的に演習を進めていくので極力欠席をしないこと。課題を確実に行った上で授業に臨むこと。また、内面の動きを丁寧に汲み取っていくことが特に重要であるので、真剣な態度で学習に取り組むこと。話し合いにも真剣で積極的に参加することが望まれる。			

教員の実務経験との関連

臨床心理士としてカウンセリングなどに携わってきた経験をもとに、カウンセリングの応答・姿勢について演習を行います。

ナンバリングコード B2PSY-dbeM-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード： 780350) 関係行政論 (社会医学・関係行政論) Social Medicine and Public Administration	科目区分	時間割 前期月3～4	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心 理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 dbeM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 平尾 智広, 神田 かなえ	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回 + 自宅学習			
授業の概要 心理援助を志す者にとって、将来活動が期待される分野の社会的しくみを理解することは必須のものです。また、広い視点から人々の健康を支える社会医学について理解を深めることは大変重要です。本講では、幅広い領域の法制度、しくみ、その基本的考え方について概説し、理解を深めます。 授業は、講義とディスカッションを中心に行い、知識や理論の学習、ケースを用いた学習を組み合わせで行います			
授業の目的 1) 心理援助者が活動する上で必要となる社会の各分野における法制度、施策について理解する。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応) 2) 社会の各分野における法制度、施策の基盤となる考え方を理解し、実社会の課題について考察する。 (DP「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 社会保障の概念とわが国の状況について述べるができる。 2) わが国の医療制度、医療関連法規について述べるができる。 3) 医療管理について述べるができる。 4) 健康政策について述べるができる。 5) 保健医療の倫理的課題について述べるができる。 6) 精神保健・福祉について述べるができる。 7) 母子保健・福祉について述べるができる。 8) 高齢者保健・福祉について述べるができる。 9) 障害者保健・精神について述べるができる。 10) 教育分野における保健・福祉について述べるができる。 11) 産業保健・労働衛生について述べるができる。 12) 司法・犯罪領域のしくみについて述べるができる。			
成績評価の方法と基準 1. 授業参加の程度 2. 筆記試験 配分の目安：1 (各20%)、2 (80%) なお、必要に応じて、再試験を一回に限り行います。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 e-Learningによる事前事後の学習を導入しています。詳細はオリエンテーションにて説明します。講義資料は授業中に配布する資料もありますが、各自でダウンロードしてください。			
第1回 社会医学概説 第2回 社会保障 第3回 医療制度 第4回 医療管理 第5回 健康と政策 第6回 保健医療と倫理 第7回 総合討論1 第8回 精神保健・福祉 第9回 母子の保健・福祉 第10回 高齢者の保健・福祉 第11回 障害者の保健・福祉 第12回 教育分野における保健・福祉 第13回 産業保健・労働衛生 第14回 司法・犯罪領域のしくみ 第15回 総合討論2			

第16回 試験

教科書・参考書等

参考図書：

国民衛生の動向<2018/2019> 厚生労働統計協会2018

公衆衛生がみえる2018-2019 医療情報研究所2018

オフィスアワー 随時：公衆衛生学事務室、または教員に連絡をとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実社会の動きと併せて学ぶと効果的なので、関連するニュースやトピックの積極的収集を行ってください。

教員の実務経験との関連

社会医学分野（健康管理、病院管理、地域保健、産業保健等）の実務経験を有する教員が授業を行います。

ナンバリングコード B2PSY-dbcM-20-Lg2 授業科目名 (時間割コード： 780360) 社会福祉論 Social Welfare	科目区分	時間割 前期木4	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 dbcM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 岡崎 昌枝	関連授業科目	心理実習	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業は、社会福祉に関する法制度、専門職、支援方法などについての基礎的な知識を得ることを目的としています。福祉的な支援を必要とする方々は分野を横断し複雑化しています。福祉的な支援を行ってきた変遷を知り、今の課題について理解を深めます。福祉専門職が生まれた経緯と支援に関連する専門職について学び心理職との連携について認識します。各福祉に関連する法制度を学び、現在起きている問題と権利を守るための施策を考察します。福祉的な支援が必要な方への支援方法を身につける予定です。			
授業の目的 社会福祉に関する法制度、専門職、支援方法についての基礎的な知識を得るために、福祉的な支援の変遷を知り、現在の問題について認識することができるようになる。福祉専門職と関連職種それぞれの業務から心理職の役割を位置づけることができる。各福祉に関する法制度を学び現在起きている問題と権利を守るための施策を理解することができる。福祉的な支援が必要な方への支援方法を身につける。(DP「倫理観・社会的責任」、「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 現在の日本で起こっている福祉問題を説明し、問題解決・解消のために何が必要か自らの意見を述べることができる。 2. 各法制度の概要を理解し、対象者と福祉的支援を行う機関や施設について具体的に説明することができる。 3. 福祉的な支援が必要な方への相談援助の方法、地域支援、専門職と多職種連携についてグループで意見を討議することができる。			
成績評価の方法と基準 小レポート20% (特に到達目標①に対応) , 期末テスト60% (特に到達目標②に対応) , グループ発表20% (特に到達目標③に対応)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回 オリエンテーション：社会福祉とは 第2回 社会福祉の変遷：欧米のあゆみ 第3回 社会福祉の変遷：日本のあゆみ 第4回 社会福祉の専門職 (社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法) 第5回 社会福祉法制度：社会福祉法 第6回 社会福祉法制度：児童福祉及びひとり親家庭の支援 第7回 社会福祉法制度：障害者福祉 第8回 社会福祉法制度：高齢者福祉 第9回 社会福祉法制度：医療福祉 第10回 社会福祉法制度：生活困窮者支援 第11回 権利擁護：虐待防止法 第12回 権利擁護：成年後見制度と日常生活自立支援事業社会福祉法制度 第13回 社会福祉の方法：相談援助 第14回 社会福祉の方法：地域支援を含む相談援助の方法 第15回 社会福祉の方法：連携と協働			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を進めるため、グループワークやレポートの提出を課します。第2・3回では学んだ内容から現在の社会福祉を1つ取り上げ、小レポートを課し内容の整理を促します。第14回では、興味をもった社会福祉問題をグループで討議し、第15回では支援方法や連携方法について報告します。			
【自主学習のためのアドバイス】 第3回：福祉問題を取り扱った新聞記事を集め、興味をもった内容についてレポートが書けるよう準備する。 第4～13回：第14～15回の報告に向けて各分野の法制度や専門職の支援方法、相談援助の方法を整理する。			
教科書・参考書等			

教科書：大久保秀子著（2018） 『新・社会福祉とは何か 第3版』中央法規。
参考書等は授業中に適宜紹介し、資料を配布します。

オフィスアワー 事前にメールでアポイントメントを取ってください。原則授業前後の時間での対応になります。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
毎回出席をとります。15分以上の遅刻、15分以上の早退は欠席として扱います。

教員の実務経験との関連

社会福祉法人救護施設に勤務し、生活に困窮かつ障害（身体、知的、精神）を有する利用者の支援を担当。その後、地域で暮らす高齢者の研究（主に坂出市）、障害者（障害）福祉計画策定委員長（宇多津町）、社会福祉士会が行う権利擁護事業ぱあとなあ香川において成年後見受任などの実務経験をもとに社会福祉全般について福祉的な支援が必要な方への支援方法などについて実践的な講義（又は演習）を行います。

ナンバリングコード B2MED-dbcM-20-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 780410) 生命倫理学 Bioethics 生命倫理学	科目区分	時間割 前期水1	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 dbcM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 黒滝 直弘	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分(ディスカッションを含む)×8回 + 自学自習			
授業の概要 心理支援における倫理的な問題について具体的な例を挙げ問題点を提示します。講義と学生の発表をもって授業とする予定です。			
授業の目的 心理支援職が遭遇するであろう様々な場面での生命倫理的、及び医療倫理的な問題をどうとらえるか、皆さんと一緒に考えます。(DP「倫理観・社会的責任」、「知識・理解」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 実際に遭遇する可能性のある倫理的諸問題を掲げることができる。 2. 倫理的な問題に関し、一般的な見解に加えて自分の意見を述べることができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験を60%、他出席点、発表やレポートの評価を加味します。出席は3分の2未満で試験の受験資格を失うこととなるので注意してください。授業では内容を全て理解してもらい、その上で一部を暗記するという姿勢が重要です。この授業は暗記すべき事項は多くありませんが、記憶か所は毎回、授業の際、提示します。教科書を指定しますが、学生諸君は出来るだけインターネットに接続可能な携帯電話やiphoneなどの機器を授業の際に、持参していただければ幸いです。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
教科書にそって下記の順序で授業します。 【授業計画】 第1回 いのちは誰が決めるのか。 第2回 子どもの医療はだれが決めるのか。 第3回 判断能力は誰が決めるのか。 第4回 いのちの質は誰が決めるのか。 第5回 双子の生死は誰が決めるのか。 第6回 いのちの優先順位は誰が決めるのか。 第7回 まとめ1 第8回 まとめ2 【授業及び学習の方法】 毎回、基本的に講義形式の授業とします。授業の後半で暗記するための時間をとります。定期試験の前には忘れていたかもしれませんが、忘れてまた暗記する、というのが学習の基本です。 学習においては「理解」以上に「暗記」が必要です。			
教科書・参考書等 教科書は「はじめて学ぶ生命倫理」(小林亜津子著, プリマ新書, 筑摩書房, 2011)を指定します。他に、インターネット上にある情報を適宜参考にします。ネットは情報収集に有用ですが、一方でそれらの情報は玉石混合です。授業ではどのようにインターネットを利用するかについても指導します。			
オフィスアワー 基礎臨床研究棟7階 水曜日午前中を歓迎します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 学生諸君には最初から高度な知識は求めませんが、真摯な学習態度を期待しています。教室で会えることを楽しみにしています。なお、本授業では、将来の公認心理師の国家試験を念頭においた授業であり、その点では学術面では物足りないという学生もいるかもしれません。そう感じた学生諸君は直接に、相談ください。			
教員の実務経験との関連			

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx1 授業科目名 (時間割コード： 780430) 病理学・免疫学概説 Introduction to Pathology and Immunology	科目区分	時間割 後期金3	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bcxM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 上野 正樹, 星野 克明, 横平 政直	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要 疾患を抱えた人の心理状態のアセスメントには、その疾患の理解が重要となる。がん、免疫系疾患、炎症性疾患、循環障害、代謝異常、先天性異常など、様々な疾患の病因、および病態形成について理解するために、病理学・免疫学の基本的な知識が必要である。近年、これらの疾患について分子レベルでの機能解析が飛臨的に進んでいるため、本科目では、疾患の基本的な病因や病態だけではなく、その分子メカニズムについても学習する。講義内容は、がん一般、免疫、炎症、循環障害の総論をはじめ、臨床心理との関連性を鑑みた疾患を含む。			
授業の目的 がん、免疫系疾患、炎症性疾患、循環障害、代謝異常、先天性異常などの疾患を抱える人に対して、臨床心理の現場における基礎的知識を習得する (DPの「b 知識・理解(21 世紀型市民及び学士(臨床心理学)として)*医療・保健、教育、福祉等の心理臨床の現場において、心理援助者が必要とする基礎的知識・技能を有している」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
がん、免疫系疾患、炎症性疾患、循環障害、代謝異常、先天性異常について、その発生機序、治療法、疾患の問題点の概略を説明できる。			
成績評価の方法と基準 レポート40%、期末テスト60%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 (オムニバス方式/全8回) 第1回～第3回：上野正樹/3回 様々な疾患の基礎となっている神経病理、炎症、循環障害などの基本的な病態を広く学習する。 第1回：臨床心理を理解する上で必要な神経病理の基本的な知識の習得 (千葉) 第2回：炎症に関する基本的な知識の習得 (村上) 第3回：循環障害に関する基本的な知識の習得 (上野) 第4回～第6回：横平政直/3回 がんとはどういうものか、また、その発生機序など、がんを広く学習する。 第4回：腫瘍の定義と分類 第5回：腫瘍の発生病理 第6回；悪性腫瘍の転移と進行度 第7回、第8回：星野克明/2回 最近、飛臨的に解明されつつある免疫学の基礎知識を学習する。 第7回：免疫の基礎 第8回：免疫が関与する疾患の解説			
教科書・参考書等 必須の教科書等はありません。推薦書については講義中に提示します。			
オフィスアワー 炎症病理学 (上野)、腫瘍病理学 (横平)、免疫学 (星野) のいずれの研究室も基礎臨床研究棟 6階西側にあります。具体的なオフィスアワーについては講義時に提示します。提示前に訪問を希望する場合も直接研究室に来てください (その時に対応困難な場合は、日時を調整します)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 確実な理解が必要な分野であり、理解度が低いときには積極的に質問してください。			
教員の実務経験との関連			

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx1 授業科目名 (時間割コード： 780440) 微生物学・医動物学概説 Introduction to Microbiology and Medical Zoology	科目区分	時間割 後期末1	対象年次及び学科 2～医学部 臨床心 理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bcxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 桑原 知巳, 藤井 豊, 新井 明治, 今 大路 治之	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自主学习			
授業の概要 感染症は医療現場で遭遇する頻度が高い疾患です。医療の発展や社会のグローバル化により、その様相は常に変化しています。本授業では代表的な病原微生物に関する基本事項について講義を行うとともに、現在の感染症を取り巻く諸問題について最新の話題を紹介します。			
授業の目的 医療従事者として知っておかなければならない微生物学の基本的知識や感染症を防ぐための具体的な方法を実践できるようにするのが本授業の目的です。『(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」)に対応』			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス、細菌、寄生虫の違いを説明できる。 ・代表的な感染症について、その原因となる病原体、感染経路、症状を説明できる。 ・感染症の治療薬を説明できる。 ・現在問題となっている感染症を列挙できる。 ・感染症を予防する方法を説明できる。 			
成績評価の方法と基準 講義への出席状況、受講態度および定期試験の成績により総合的に判断します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 微生物の基本性状 (桑原) 第2回 薬剤耐性菌 (桑原) 第3回 ウイルス学総論 (藤井) 第4回 ウイルス学各論 (藤井) 第5回 ヒト常在菌の生理機能 (今大路) 第6回 寄生虫疾患 (新井) 第7回 衛生動物 (新井) 第8回 感染経路と感染対策 (桑原)			
教科書・参考書等 <ul style="list-style-type: none"> ・シンプル微生物学 (改訂第6版) 小熊 恵二, 堀田 博, 若宮 伸隆 編. 南江堂, 2018. ・医動物学 (第7版) 吉田幸雄, 有菌直樹, 山田稔 著. 南山堂, 2018. ・はじめの一歩のイラスト感染症・微生物学 本田武司 編. 羊土社, 2011. 			
オフィスアワー 月曜日: 16:00-17:00			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 各講義では必要に応じて講義資料を配布しますが、講義に出席して聴講しなければその内容を理解することはできません。各講義の前にはあらかじめ講義内容についての予習を行い、聴講後は速やかに参考図書や資料を活用して知識を整理し、十分な自主学习を行うことが重要です。下記のメールアドレスでアポイントを取って下さい。メールでの質問は受け付けません。 infect@med.kagawa-u.ac.jp yufujii@med.kagawa-u.ac.jp (藤井教員)			
教員の実務経験との関連 本講義は微生物学の教育研究に豊富な経験を有する教員が、微生物学および医動物学の基本事項から最新の知見まで理解しやすいように解説します。			